

退之志、表疏重疊、慇懃不已、所以忘家思國、忠操彌篤者也、卽矜憲懃遂隨所請、中心感念、不忘寤寐、宜自貫白丁、迄于五世、課役蠲除、奕葉爲例、以斯優恤、答彼洪勳、主者明之、稱朕意焉、

弘仁十一年正月六日

○又見政事  
要略五十  
九

〔續日本紀二十五〕天平寶字七年十月丁酉、前監物主典從七位上高田毗登足人之祖父、嘗任美濃國主稻屬王、申兵亂、以私馬奉皇駕、申美濃尾張國、天武天皇嘉之賜封戶傳于子、至是坐殺高田寺僧下獄奪封、

〔續日本紀二十六〕天平寶字八年九月乙巳、勅曰、太師正一位藤原惠美朝臣押勝、并子孫起兵作逆、仍解免官位、并除藤原姓字已畢、其職分功封等雜物宜悉收之、

## 國封

國封トハ、其國ニ封ジテ其國公トズルコトニテ、古來數人ニ過ギズ、悉ク藤原氏ニ出デ、且ツ皆歿後ノ追封ニ係レリ、初メ不比等ノ淡海公ニ封ゼラル、ヤ、子孫ノ其封ヲ辭スル時ニ、一言ノ之ニ及ブ者ナキヲ觀レバ、唯其號ヲ加ヘタルノミニテ、舊封ノ外ニ別ニ増セル所ナキガ如シ、良房ノ美濃公ニ封ゼラレタルハ、永々絶ユルコトナカラント云ヘル詔ヲ受ケタレドモ、幾モアラズシテ奉還セリ、忠平ノ信濃公ニ封ゼラル、ヤ、僅ニ六十五日ニシテ奉還セリ、其餘ハ皆考フベカラズト雖モ、美濃公、信濃公ノ例ニ據リテ之ヲ推セバ、受ケテ卽チ奉還スルヲ以テ例トシ、唯其爵號ヲ以テ榮トセシナラン、良房ヨリ以來、身太政大臣ノ官ニ居リシ者ハ、在任ト去職トヲ問ハズ、其薨ズルニ及ビテヤ、褒スルニ謚ヲ以テシ、封ズルニ國ヲ以テスルヲ例トセリ、而シテ鬚髮スル者ハ與ラズ、後一條天皇ノ長元年中、藤原公季ヲ追封シ